

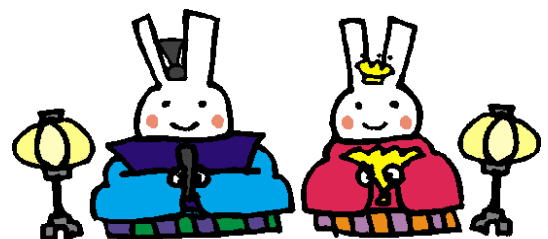
# SSKS 風の子便り

ひとりぼっちの障害者をなくそう



## 目次

- ☆巻頭文、初詣感想 . . . . . 2
- ☆虫めがね . . . . . 3
- ☆高浜餅つき大会感想 . . . . . 4
- ☆寄付のお礼、スケジュール . . . . . 5
- ☆小野塚連載 . . . . . 6
- ☆岡本連載 . . . . . 7
- ☆太田連載、クイズ . . . . . 8
- ☆学習会 . . . . . 9
- ☆活動報告、クイズ解答 . . . . . 10
- ☆夕会 . . . . . 11
- ☆編集後記 . . . . . 12



# 巻頭文

寒い日が続きます。私は福島県出身なのですが、先日雪が降り積もったときは、混乱しました。東京に出てきて相当な年月が経っているのに、冬に雪が積もることを忘れていました。滑って転ばないように、しっかり足下を確認しながら、恐る恐る歩いていました。

ストーン・ゴッド



## 初詣感想

1月5日（土）の活動は、新年一回目ということで浅草の浅草寺へ行き、初詣をしてきました。お天気にも恵まれ、東京スカイツリーが開業したこともあり、観光客でいっぱいでした。僕たちの班は、ご祈願の供養も早々に、昼食をしに行きました。入ったお店は、僕の祖父が常連にしていた天ぷら屋さんでした。大変おいしく戴きました。昼食後は、人混みの中をかき分けながら、買い物を楽しみました。来年はどこへ行くのかなあ？

田中 聡



私の初詣は神社に行って、賽銭箱に賽銭を入れて帰るとするのが恒例行事です。

しかし毎年15円程度で健康で無事故で平和に過ごそうと思うのは神様に失礼かと思いつつも自分では一生懸命にお願いをしています。

今年もまた初詣に行って来ました。賽銭箱周辺は特にですが何処もかなり混んでいた為身動きが取り辛く、賽銭・食事以外は殆ど出来る事がありませんでした。それでも賽銭を上げることは出来たので良かったです。

田村 亮彦

掛橋 竜也



僕が今でもお世話になってる「ホームラン」ラザの石川さん。  
石川さんとは2009年の夏に出会いました。

石川さんは優しい人です。信頼があります。僕は石川さんの紹介で風の子会があることを知って、2009年の秋に入りました。ホントにありがたうございました。

これからもお願いします。もう一人お世話になったのは僕が城南養護学校で会った吉田先生です。メガネをかけてました。面白い先生でした。吉田先生と一緒に旅行に行きました。会いたいと思います。とても食べ物に詳しいです。

柳川 敬事



僕がお世話になった方は、ここに書ききれないほどおられますが、今現在お世話になっている方は、医師の富田先生です。済生会中央病院で、糖尿外来を担当されているのですが、富田先生に代わられてから、僕の糖尿病の値をはかる血糖値は段々改善されてきたではありませんか。従って病院に行く回数も、始めは一ヶ月に二回だったものが最近では、二カ月に一回になったのです。先生はおっしゃいます。「この病気はあわててもしょうがない病気です。ですからあわてず時間をかけて治していきますましょう。」そして富田先生は僕の方を向いて自信に満ちたお顔で、お笑いになりました。僕はそれからというもの病院が好きになりました。ですから富田先生がおられるような病院が数多くできたらいいなと思いました。

太田 稔

# 虫めかね

## ～お世話になったあの人へ～

大学時代に知り合った友人や先輩達の中で、今でもつきあいが続いている人が何人かいる。卒業後、彼らはそれぞれの地元に戻ってしまったが、年に数度は会う機会を作って飲んでいる。学生時代は彼らと本当によく遊んだ。麻雀をし、カラオケに行き、ドライブをし、夜通し語り合った。それまでの家と学校という二つの世界しか知らなかった僕にとって、大学時代の寮での生活は見るもの聞くもの体験するものすべてが初めてで新鮮だった。そこで知り合った人たちから多くのことを教わった。人とつきあうとき、していいこといけないこと、すべきことすべきでないこと、気遣い思いやり、そして時として叱ること叱られること・・・そういった人間関係の機微を僕はこの時期に学べたと思う。

卒業してからも、僕を支えてくれた奴がいる。新橋に住み始めて2、3年くらい経った頃、何もせずぶらぶらと生きているだけの自分に対して焦りや苛立ちを感じていた。そんなときに「考えているだけじゃ駄目だ。とりあえず動いてみる」と背中を押してくれたのも寮生だった。その言葉が支えとなって前に進むことが出来た。区役所に行き、社協を紹介してもらい、辿り着いたのが風の子だった。その彼は今、滋賀に住んでいる。仕事の都合で東京に来るときは必ず会いに来る。会うと必ず飲み、昔話をし、互いの近況を語り合う。彼とのつきあいは、たぶん一生続いていくだろう。

世話になった人、というのは少し違うかもしれない。けれども僕にとって彼は、かけがえない友人であり、一生続いていく仲間なのだ。

小野塚 航

# 高浜餅つき大会感想



1月20日（日）高浜荘で餅つき大会が開催されました。参加者は通所者4人・職員3人・ボランティア1人の計8人で午前10時から12時までで、2階の踊り場でまず最初にマンションの方がつき、そのあとメンバーが軽い杵を持って10回ずつつきました。皆でつくたての餅を安倍川餅・からみ餅・磯部餅・あんこ餅として美味しく頂きました。高浜荘の方々声をかけていただきありがとうございます御座いました。

三木 直人

私は餅つきについて詳しくないのですが、今回の餅つきを経験して、1つのものを作り上げることに何人もの手がかかり、ようやく1つのものに出来上がる事に達成感を覚えました。

掛橋 竜也



1月20日、高浜荘で餅つき大会が開かれました。当日僕が、風の子（僕はお餅が好きのため参加しました）に行くと、もう餅つき大会は、始まっていた。高浜荘の男の方たちが一生懸命餅をついていました。僕も小さい杵を使って、餅をつかせていただきました。さて餅つきが終わりいよいよ試食、用意された餅にかけるものは、きなこ、あんこ、醤油、もみ海苔等々、つくたてのお餅は、最高に美味しかったです。最後になりましたが、高浜荘の餅つきのスタッフの方々、本当にありがとうございました。

太田 稔



二月十三日 運営委員会

二月二十三日 料理教室

松本恵司



ス  
ケ  
ジ  
ュ  
ー  
ル

## 寄付のお礼

### 賛助会にご賛同して下さった方

新井ミヨ様、江尻ひろ子様、岡本和子様、  
小田正人様・瑞穂様、小野塚満朗様  
金子豊様、小林高史様、近藤綾子様、塩崎良子様、  
島田美登様、高野定雄様・カネ様  
田中紀義様、仲宏治様、中嶋仁様、長野松男様、  
中山進様、羽鳥貞子様、  
丸毛波津様、諸角始子様、山形和子様、山崎真理子様、  
吉本道子様

### 寄付を下された方

斉藤臣一様、松澤いく世様

ご協力ありがとうございました。



## わたるのドミトリーライフ

【ドミトリーとは英語の dormitory つまり寮という意味】

### 第51話 Introspect Myself “ Part - 6 Shocking Incident - 2 ”

「言えよ、その先を」両手をびたりと合わせ、顔の前に置きながら尋ねる。緊張感は、すでにピークに達している。掌の汗の嫌な感覚もそのままだ。イチは、そんな僕の態度に若干戸惑っていた。5分間の長い間した後で、イチは口を開いた「実は俺、トモと付き合ってるんだ」。

「付き合ってる？」イチのその言葉を反芻するしかなかった。目の前にいる男が発した言葉を全く理解できなかった。焦点の合わない視線を目の前にいる男に必死にあてて、次の言葉を待つ。「春先に、トモの方から言われたんだ。俺も、卒業してすぐの頃だったし、いろいろ、先のことについてとか考えたりすると袋小路にハマっちゃったりしてな。そういうときに、そばに誰かいてくれると嬉しいってのは、わかるだろ？」。合わせたままの両手の内側はすでにぐっしょりと濡れきっていて、気持ち悪さはもはや拭いようがない。「それまでずっと、仲のいい後輩としてしかみてなかった奴からそう言われると、初めはそりゃびっくりしたさ。でも、さ、いい奴だし、断りきれなかったんだ」そう言うとイチは僕の顔を正視した。僕には彼の言葉はほとんど頭に入らなかった。彼の言葉はただの音となって僕の耳を右から左へとすり抜けていくだけだった。「ひとつ、聞きたいことがある」汗でびたりと張り付いてしまったかのように感じられる両手を無理やりはがし、両膝の上に置く「俺たちが行ったあの一泊旅行がきっかけなのか？」今度は両手と両膝がびたりとついてしまったかのような錯覚にとらわれる。「もしそうだとしたら、俺はまるで・・・」「いや、それは絶対ない。あの旅行は純粋に楽しかった。あれがきっかけとかは絶対ない」僕の言葉をさえぎるように、まくしたてるようにイチは言う。「・・・そっか、そう、だよな・・・」「あの一泊旅行は純粋に楽しかった。だから、純粋に楽しい記憶として残していたい」「ああ、まあ、それならそれでいいさ・・・」それで会話はぷつりと途切れてしまう。僕の口と舌は、奇妙な乾き方を始めていた。

～・・・～・・・～

イチとトモが付き合っている・・・？

何故だ・・・？

俺がトモのことを好きだということをイチは知っているはずなのに・・・？

何故、どうしてなんだ・・・？

～・・・～・・・～

瞬間、僕の頭の中は真っ白になっていた。

～・・・～・・・～

それからしばらくの間、沈黙が続いた。何を切り出せばいいのかわからない男とそれをただひたすら待ち続ける男との間の歪な緊張感が場を支配していた。店内にはそれなりに客が増えていて、賑やかさと騒がしさに満ち始めている。思考をうまく前に進ませることができずにいる僕は、だいぶ前に飲み干したジョッキグラスを凝視し続けることしかできなかった。

“ To Be Continued...”

風の子便り連載

岡本 明

バリアフリーよもやま話

第17回 「ゑびす様」

話は神々の時代に遡ります。この世の最初の神様はアメノミナカヌシノカミ。そのあと何柱か（神様は1柱、2柱と数えます）の神様は独身でしたが、そのうち夫婦の神様が何組か現れます。その中の一組であるイザナギノミコトと女神イザナミノミコトは、淡路島、四国、九州、本州などをつぎつぎと「生み」、日本の形を作った神様です。ところが、この夫婦神の最初の子ども（最初の子供ではないという説もありますが）は3歳になっても立つことができず、蛭（ヒル）のようにグニャグニャしていたので、蛭子（ヒルコ）と呼ばれました。困った夫婦神はヒルコを葦舟で海に流してしまいましたが、ヒルコは漁民に助けられ、神として育てられました（インドまで流れていったという話もあるようです）。そしてヒルコすなわち蛭子はなぜかエビスと読まれ、それが七福神の**ゑびす**様だということです。なぜヒルコがエビスになったのかは分かりませんが、もともと海には「えびす」という神様がおられたので、それと混同されたのではないかという説もあります。あるいは、「蛭」の字は「蝦（エビ）」と似ている（？）ので誰かが間違えたのかもしれない（私の勝手な推測です）。



俳人で歴史家としての著書も多い当会の花田政國（春兆）会長は、ヒルコは未熟児出産による重度脳性まひだったのではないかとしています\*。神話の世界にすでに脳性まひのことが出てくるのというのは驚きです。そして、足の立たない子どもを漁民が育てた、そして神様として祀るほどに親しまれ、敬われていたということは、古代の人々も障害のある人への理解や優しさを持っていたということですね。

七福神といえば、その**ゑびす**様以外の6人も、何らかの障害のある人だというのはよく言われることです。確かにその容貌から、ダウン症候群、水頭症など思わせるところもあります。障害のある子どもが生まれた場合、「この子は七福神の〇〇様に似ている、だから大切にしよう」というように考えて欲しいと願って七福神はあのような姿をしておられるのかもしれない。

福助という、幸福を招くとされる大きな頭の縁起人形があります。実在の水頭症の人がモデルで、その人を家来にした家には幸運が続き、大切にされていました。のちに彼は自分の人形を作って「福助人形」として売り出したところ、大変喜ばれて大ヒットだったそうです。



障害のある人への社会的理解や支援制度がほとんど無かった昔、排除したり差別したりすることが多い中でも、何とか共生していけるようにしよう、と皆で考えた知恵がこれらの話なのかも知れません。バリアフリーというと設備、機器、制度だけが話題にされる今日、人の考え方の大切さを感じさせる話だと思います。

\* 花田春兆書『日本の障害者—その文化的側面』  
（中央法規出版、1997年）

その人の名は旧姓渡辺圭子、僕はあまりに近すぎて分からなかったのです。

その頃テレビではホームドラマが真っ盛りでした。中でも、石坂浩二、水前寺清子主演「ありがとう」というホームドラマで、水前寺清子扮する魚屋の娘がお見合いばかりして何度やっても決まらなかった。ところがその娘は向かい側の肉屋の息子が好きだった。そして最終的にはこの二人、結婚してこの物語はハッピーエンドで終わると言う粗筋。

太田 稔

僕の生い立ち  
第十八話

## Ryo's エニグマルーム

Q1, A君のバースデーパーティーの為にA君が大好きな、ピザ・寿司・中華の出前をしました。では、A君が最初にとったものは何でしょう

Q2, バスに乗っていたA君とBさん。乗客は他に誰も居ませんでした。暫く進むとBさんが携帯電話を忘れた事に気が付き、直ぐ先の停留所で2人とも降りました。携帯電話は見つかりましたが、先程乗っていたバスの運転手が2人が降りた直後に落石事故に遭った事を知りました。Bさんが「降りて良かったね」と言うとA君は「何言ってるんだ、降りなきゃ良かった」と言いました。何故A君はこの様な事を言ったのでしょうか？

Q3, 街中で聞こえてきた会話です。『A: Bさんだけ休みが多いよ。』『B: AさんとCさんが休んでいる時に働いてるよ。』『C: 次はAさんが働く番だよ』此れは一体何のこと(人間の会話ではありません)。

Q4, IXはギリシャ数字の9です。此れに線を1本足して6にしてください。



# 学習会報告

一月九日の水曜日は二月末までの予定を決めました。

一月十六日の学習会はテーブルゲーム。トランプやオセロをして遊びました。

一月二十三日水曜日は討論会で、テーマは親亡き後のことを話し合いました。

別に何も考えてなかったという人、お金の管理が難しいと思う人、言語障害が重くてまわりの人と、コミュニケーションが、取れないのではと心配する人など、みんな忌憚なく話してくれました。



一月三十日水曜日は、みんながとても楽しみにしていたクレープ作りは、焼く枚数が多いのと盛りつけが大変で、いつもよりも時間がかかってしまいました。おやつ作りはたいがい時間が余り、次には違う事をする事も多いのですが、次の時間が無くなったほどでした。だけどみんなで一生涯懸命作ったクレープは美味しかったよね。またやりたいと陰の声がかえりました。

太田 圭子



# 活動報告

お目出とうございます。

さあーいよ々新しい年が始まりました。今年も色々な行事や催し物が、目白押しにありますが、不屈の精神で頑張っていきましょう。一月五日の土曜日に今年も恒例の浅草、浅草寺へ初参りに行きました。初参りに参加した O さんが、美味しい天ザルを食べたと喜んでいました。

一月二十日日曜日、高浜作業所が入っている建物内で、餅つき大会が行われて、風の子でも職員四人と V さんが一人、メンバーの希望者四名が参加しました。

参加者の一人はお雑煮が好きらしくて、メニューに無かったと残念がっていました。

太田圭子

## A1. 歳

A2. 落石事故というのは一瞬のもので、バス停で下車しなければバスが通り過ぎた後に落石して助かった可能性が高いであろうから

## A3. 信号機

A4. Xの右に『6』と書き『1×6』にするか1の左に『S』を書き『SIX』にする

# 解答

# 夕会便り



1月12日（土）

☆浅草寺へ初詣（1月5日）に行った感想を聞きました。

多くの人がいて混んでいた為、待ち時間が多かったので着いた班から行動すれば良かったのではないかとおそは屋さんの対応がよかった。など・・・。

☆クラブ活動の実行委員の設立について

実行委員にボランティアも入れる。ボランティアさんが少なくなってきた原因を話し合う。聞き取りを再度行う。運動部は分かれた方が良くはないか？などの意見が出ました。

1月19日（土）料理教室について

揚げ物や炒め物がいいと意見が出ました。それで今回のメニューは、ちゃんこ鍋、カレー、餃子に決まりました。

1月26日（土）

☆料理教室の材料について

カレーは甘いものと辛いものを作る。この為、2つに分かれることになりました。ちゃんこ鍋の具はキャベツ、白菜、もやし、ニラ、マイタケ。長ネギ、タラ、豚肉、マカロニ。味はみそ、キムチ。

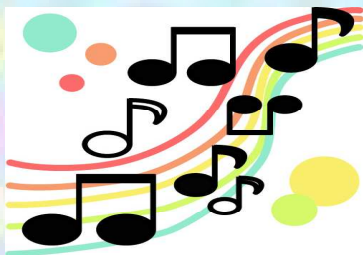
餃子は白菜、キャベツ、ニラ、豚挽肉、しょうが、にんにく。以上の様に決まり料理教室は2月23日

（土）実施致します。

☆女子職員の諏訪敏子さんが退職する事になり、送別会を開くことになりました。実行委員に柳川さん、三木さん、松本恵司さん、松本成子さんが選ばれました。



幸 高史



2013

この頃寒すぎて辛いです。雪は大好きですが、積雪量が半端無いです。

田村 亮彦

# 編集後記

最近僕は、一人で散歩に行くことが多くなり、リフレッシュした気分になります。家の近所の公園や品川駅周辺などへ行き、芝浦アイランドや田町駅周辺などにも行ったりする、二時間ぐらいの散歩コースなのです。これからは、交通機関を使わずどこまで行けるか挑戦してみたいです。

タナッキー

風の子に通い始めて十年が経った。風の子の歴史の三分の一弱に終わった事になる。長いようで短いような、あっという間の十年だった。通い始めた頃はただのメンバーでしかなく、日々の作業や行事などを純粋に楽しんでいた。四年目あたりから運営委員と総務に組み込まれ、行事委員にも入っていくにつれて、組織という側面からも風の子をみられるようになっていった。純粋に楽しんでいく頃からは組織の一員という役割にシフトチェンジしていった。それがステップアップなのかはまだわからない。自分に自信が持てない人間は、状況や事象についての判断に常に確信が持てないのだ。けれども前進していくしかない。それが生きていくということなのだろうから。

小野塚 航



## ひとりぼっちの障害者をなくそう 特定非営利活動法人・風の子会 ~定価40円~

編集者  
石田久  
太田久  
佐藤直  
三木亮  
柳川一  
田村彦  
久敬代  
事人彦  
庸稔郎

主筆  
太田小  
野中  
田野  
塚  
高摩  
恵  
郎史子  
司聡航  
子

編集人：【高浜生活実習所】  
生活介護、就労継続支援B型

〒108-0075  
東京都港区港南1-1-27 カナルサイド高浜3階  
TEL 03(3474)9674 FAX 03(3474)9213

ブログ：<http://kazenokokai.blogspot.com>

発行人：障害者団体定期刊行物協会  
東京都世田谷区砧6-26-21

